

# 営農情報（水稻）

## ～田植え後の管理について～

令和 8年 6月  
福岡大城農業協同組合  
南筑後・久留米普及指導センター

### 1 田植え

トビイロウンカの被害や登熟期間の高温遭遇による品質低下を防ぐため、6月20日以降の適期植えとします。また、極端な疎植は、紋枯病のリスクを高め、充実不足による収量・品質低下を招くため、避けます。

### 2 病害虫防除（箱施薬剤）

＜栽植目安＞50～60株/坪、3～4本/株

箱施薬剤は、効果の安定のため田植え前日までに、50g/箱を確実に散布してください。なお、散布後は薬剤定着のために軽くジョロでかん水しましょう。

品種	箱粒剤	対象病害虫	使用時期
元気つくし	アンコール箱粒剤	いもち病・ウンカ類・ゾウムシ	移植3日前～移植当日
ヒノヒカリ ツクシホマレ	フィルラゲカサ箱粒剤	ウンカ類・ゾウムシ	播種時（覆土前） ～移植当日

※前年紋枯病が多発したほ場では、ブーンハーデス箱粒剤の施用を検討する。

### 3 雑草防除（初期、初中期一発除草剤）

初中期一発除草剤は水を介して広がり、土壌表面に草を枯らすための「処理層」を作ります。雑草の芽や根が「処理層」に触れて有効成分を吸収し、枯死します。湛水処理とし、粒・フロアブル剤で3～5cm、ジャンボ・FG剤で5～6cmの水深を保ちましょう。

除草剤		散布量/10a	使用時期
サラブレッドGO もしくは ラオウ	1キロ粒剤	1kg	移植時または 移植直後～刈り12.5葉期
	フロアブル	500ml	
	ジャンボ	10パック	移植直後～刈り12.5葉期
ジャスタ	1キロ粒剤	1kg	移植時または 移植直後～刈り13.5葉期
	フロアブル	500ml	
	ジャンボ	10パック	移植後1日～刈り13葉期
ガツントZ 200FG	FG剤	200g	移植後3日～刈り13.5葉期

- 【注意】①除草剤成分の河川への流亡を防ぐため、散布後7日間は落水しない。  
②田植え同時処理は、田植え時土の戻りが悪いと薬害が出やすいため、使用を避け、田植え後速やかに入水する。  
③代かき時から雑草種子の発芽は始まるため、除草剤の使用基準内でなるべく早く処理する。なお、代かき～田植えが4日以上空く場合には、『デルカット乳剤』の使用を検討する。!!本剤処理後、4日間は田植えができないので、注意が必要!!  
④藻類が発生した場合は、発生始期にモゲトン（粒剤・ジャンボ）の散布を検討する。

＜裏面に続く＞

## 4 水管理

### (1) 活着期（田植え後～10日ごろ）

田植え後、植え傷みを防ぐため、湛水します。

ジャンボタニシが多い場合は、スクミノン（1～4kg/10a）を散布します。

### (2) 分けつ期（田植え後10～30日ごろ）

浅水での間断かん水を行います。なお、麦わらをすき込んでガスが発生している場合は、ガス抜きも兼ねて、落水期間を長くした間断かん水とします。

### (3) 中干し（田植え後30日ごろ～）

株当たりの茎数が20本程度になったら、7～10日間の中干しを行います。特に、元気づきは、倒伏防止のため、中干しを確実にします。

**【注意】** ①中干しの程度は、足跡がつくくらいの黒乾状態で、ひびが入る程度。

②幼穂形成期以降は最も水を必要とするため、出穂20日前頃までに中干しを終了する。

## 5 雑草防除（中・後期除草剤）

初中期一発除草剤の散布後に発生した雑草に対しては、雑草の種類に応じ、以下のいずれかの薬剤を散布します。

雑草の種類	薬剤名	散布量/10a	散布方法	使用時期
イネ科 (ヒエ)	トドメMF1キロ粒剤	1kg	湛水	移植後14日～ノビエ5葉期 収穫50日前まで
	トドメMF乳剤	200mL (水量25～100L)	湛水または落水	移植後14日～ノビエ7葉期 収穫50日前まで
イネ科 と広葉	ワイドショット1キロ粒剤	1kg	湛水	移植後15日～ノビエ4葉期 収穫45日前まで
	ロイヤント乳剤※ <sup>1</sup>	200mL (水量25～100L)	落水またはごく浅水	移植後20日～ノビエ5葉期 収穫45日前まで
	トドメバスMF液剤	1000mL (水量70～100L)	落水	移植後15日～ノビエ6葉期 収穫50日前まで
	レブラスジャンボ	10パック	湛水	移植後14日～ノビエ4葉期 収穫60日前まで
	アレイルSC	500mL	湛水または落水	移植後20日～ノビエ5葉期 収穫45日前まで

※<sup>1</sup>散布後3日以内に入水すると効果が高まる

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**